

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 5 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006年度～2008年度
課題番号：18320088
研究課題名（和文）：拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究
研究課題名（英文）：
研究代表者：
富盛 伸夫（TOMIMORI NOBUO）
東京外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：50122643

研究成果の概要：

1. 平成18年度から20年度までに研究分担者が現地調査等により収集した最新のデータをもとに各国の言語教育政策と実効性の検証作業を東京外国語大学語学研究所との共催による研究集会で、合計13回行った。
2. その他、研究分担者・研究協力者は研究期間3年間の間に、それぞれが関係する学会・研究会などで発表し論文として提出した。（下記、5. 主な発表論文等を参照）一例として研究代表者富盛伸夫は平成20年11月15日外国語教育学会（於、東京学芸大学）などにおいて特別講演「ヨーロッパ連合（EU）における高等教育改編と言語教育政策の問題点について」と題し、「ボローニャプロセス」による高等教育制度改革の下で、言語教育政策と教育現場との諸問題について現地調査に基づいた報告を本研究プロジェクトの成果として行った。
3. 上記の研究会の成果発表など主な資料を、本プロジェクトの研究報告書として印刷し公開した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2007年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2008年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総計	13,600,000	4,080,000	17,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語、言語学、言語教育、言語政策、EU、CEFR、言語能力測定基準、少数者言語

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

地球規模での国際化が急速に進むなかで我が国の外国語教育政策の見直しも必要となる現在、喫緊の課題として高等教育における外国語教育の理念・目標・評価システム自体を問い直し、改善のための有効な方策を立てるべきである。

本研究グループの参加者は、EU各地域の専門の言語文化の研究者であるとともに言語教育従事者として、EUにおける言語教育政策とその実効性に強い関心を持っている。研究対象地域をEUとした理由は、およそ言語政策としては史上初で最大規模の試みがEUで構想され、すでに通算15年以上も実施への施策がとられていることである。EUにおける言語政策・言語教育政策の成否は、重要な参照例として日本の外国語教育の改革に深い示唆を与える。

2. 研究の目的

- (1) EU公用語としての第一外国語教育もしくは英語教育の、各国における教育プログラムの研究調査と実効性の研究を行うこと：

EU域内のリンガフランカとして第一外国語として学習対象となった英語の言語能力はどの程度実用可能なレベルまでの学習段階に達しているか、英語の教育法と教材開発・教授法の改革は、どの程度進みつつあり、果たして実効性をもつものであるか、等が、日本で外国語教育に携わる共同研究者の関心の焦点である。本研究では、英語学・英語教育学の専門家と各言語教育の専門家が協同することにより、関係諸国の教育政策と教育方法の評価を行った。

- (2) EU各国における非公用語、地域少数民族語の言語政策・言語教育政策の調査研究を行うこと：

EUの存立の理念である複数言語文化共生主義の問題は、この圧倒的な優位にたつ英語の普及の前に、言語教育政策の理念と現実の乖離を生む危険性がないとはいえない。本

研究は、特に複数言語国ないし地域において実態調査にもとづいて検証し、EUの言語政策がどの程度まで現実的に成果を生んでいるのか、を検証した。特に、少数民族言語の擁護・保存に対して理念的に肯定的なEUの言語政策は、実効性のある少数言語振興政策をとっているか、また、非公用語（地域語）の言語教育政策を調査研究した。

- (3) EUの言語教育政策の研究から日本の言語教育政策への寄与：

本研究は成果の一環として、拡大EUの外国語教育政策とその実効性を検証することにより、日本での言語教育が抱えている問題に対して信頼できるデータ提供と助言的機能を持ち、日本の外国語教育の改善に寄与しうる。すでに積極的な政策としてEUで行われている外国語能力評価基準のCEFR（Common European Framework of Reference for Languages、以下 CEFRまたは「共通参照枠組み」）の教育現場での評価基準の検証や教材の研究を通して日本語教育の改善に貢献することができる。

3. 研究の方法

- (1) 拡大EU諸国における言語教育制度の最新動向調査：年次ごとに地域を限定し、特に検証項目として、現在実施に移されつつあるCEFRの実効性を研究した。関係諸国の言語に通じた本研究の分担者が現地調査を行い、EUの外国語教育政策の最新動向を調査し、各国別の取り組みを検証した。

- (2) 拡大EU諸国の多言語併用状況における多言語教育とEUの言語政策の関連の分析：

現在のEU諸国の非公用語の使用状況、法的位置づけについて、現時点での実態調査を行った。このために、平成18年度からまず東欧・南欧地域、つづいて西欧と北欧諸国を重点化し現地調査を企画実施した。

- (3) 多言語併用語者の意識類型の分析：

言語外的な要素も考察しつつ、言語教育政策と一般話者の意識ギャップの調査をもとに、多言語併用話者の意識タイプの地域的バリエーションを分析した。このため、現地での言語使用者に対する意識調査を直接的な聴き取りアンケート調査で行った。

- (4) 新たな研究方向への展開を探る：
EUの言語教育政策の理念と実効性の検証作業の範囲を拡大し、日本での外国語教育の実態に適用する。
- (5) 上記の目的で行った現地調査地域と担当者は以下の通り：

イギリス	浦田
ドイツ	在間
フランス・スイス	富盛
イタリア	山本
スペイン	川上
ポルトガル	黒澤
チェコ	金指
スロヴァキア	長與
北欧語圏	森
マルタ、キプロス	ラトクリフ
ベネルクス圏	川村三喜男

4. 成果の公開

本研究によって得られた研究成果は、外部参加者にも開かれている定期的な研究集会の他、研究分担者が関係する学会の例会、大会などを活用して公開した。

また、本研究の総括的報告書と共にWeb上で公開するための準備を最終年度に行った。

本研究に関わる成果の国内外に向けての印刷媒体での公開は、次項に記す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 35 件)

- ① Suzuki, Shingo, *Between thematicity and grammaticalisation: the diachronic rearrangement of information structure and the position of clitic pronouns in Italian*, L. Mereu (ed.), *Information structure and its interfaces*, p. 269-p. 304, 2009 年、査読有

② Suzuki, Shingo, *Marcaturo preposizionale dell' oggetto diretto in romeno*, S. Reinheimer Ripeanu (ed.), *Abordări semantice în lucrări de lingvistică romanică*, București, Editura Universității din București, p. 104-p. 136, 2009 年、査読有

③ 在間 進, 「ドイツ語コーパスの現状」、『国文学 解釈と鑑賞』、2009 年 1 月号、p. 150-p. 157, 2008 年、査読有

④ 山本 真司, 「「迷惑の受身」とイタリア語の与格」、『語学研究所論集』14、p. 65-p. 80, 2009 年、査読有

⑤ 在間 進, 「ドイツ語研究の一構想」、『ドイツ語を考える-ドイツ語とことばについての小論集』、p. 9-p. 19, 2008 年、査読有

⑥ 黒澤 直俊, 「ポルトガル語」、『言語』2008 年 4 月号、p. 70-p. 73, 2008 年、査読有

⑦ 黒澤 直俊, 「ポルトガル語の教科書-ブラジルポルトガル語の特殊事情-」、『外国語教育研究』11、p. 119-p. 124, 2008 年、査読有

⑧ 山本 真司, 「『黒を一杯』-フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州における体験より-」、『ロマンス語研究』41、p. 11-p. 20, 2008 年、査読有

⑨ 長與 進, 「「民族語」と「国家」の密かな関係 -文章語史における独立スロヴァキア国期の評価をめぐって-」、鈴木健夫編『地域間の歴史世界 移動・衝突・融合』、p. 314-p. 335, 2008 年、査読無

⑩ 鈴木 信五, 「イタリア語・語順研究の今」、『イタリアーナ』31、p. 1-p. 20, 2008 年、査読無

⑪ 黒澤 直俊, 特集「受動表現」: ポルトガル語、『語学研究所論集』14、p. 175-p. 179, 2009 年、査読有

⑫ 金指 久美子, 特集「受動表現」: チェコ語、『語学研究所論集』14、p. 195-p. 198, 2009 年、査読有

⑬ 森 信嘉, 「ノルウェーにおける言語状況と言語政策・言語教育政策」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 4-p. 29, 2009 年

⑭ 鈴木 信五, 「ルーマニアの言語状況および言語政策・言語教育政策」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 82-p. 95, 2009 年

⑮ 金指 久美子, 「チェコ共和国の言語状況、言語政策および外国語教育事情」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 96-p. 115, 2009 年

⑯ 長與 進, 「スロヴァキア共和国における言

語状況と言語政策・言語教育政策について」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 116-p. 134、2009 年

①⑦川村 三喜男、「ベルギー・フランドル共同体の外国語教育政策」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 135-p. 156、2009 年

①⑧在間 進、「ドイツにおける CEFR 導入の現状とその改善への基礎研究」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 157-p. 171、2009 年

①⑨浦田 和幸、「ウェールズにおける言語状況と言語政策」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 172-p. 194、2009 年

①⑩山本 真司、「ヨーロッパの言語スタンダードとイタリア北東部の言語状況について」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 195-p. 210、2009 年

①⑪川上 茂信、「スペインにおける言語状況と言語教育」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 211-p. 224、2009 年

①⑫黒澤 直俊、「ポルトガル共和国の言語状況と北東端地域における少数言語の存在」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 225-p. 244、2009 年

①⑬Robert Ratcliffe、*Report on language policy and language education policy in the Republic of Malta and in the Republic of Cyprus*、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 245-p. 255、2009 年

①⑭富盛 伸夫、「EU の言語教育政策の新展開と問題点 - フランスとスイスの事例を参照しつつ -」、『平成 18-20 年度科学研究費補助金「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」研究成果報告書』、p. 256-p. 269、2009 年

①⑮Suzuki, Shingo、*Strutture italiane di "reduplicazione clitica" in confronto a quelle romene*、*Studi di grammatica italiana*, XXIV (2005)、p. 359-p. 393、2007 年、査読有

①⑯在間 進、「ドイツ語の IT 教材開発」、『ドイ

ツ語の IT 教材開発 (平成 18-19 年度科学研究費補助金基盤(C) (課題番号: 17520369) 研究成果報告書)』、p. 1-p. 20、2007 年、査読無

①⑰黒澤 直俊、「西欧における国語の成立と現代」、『言語』2007 年 1 月号、p. 42-p. 49、査読有

①⑱富盛 伸夫、「フランス語能力検定試験と言語能力評価基準」、『外国語教育研究』9、p. 104-p. 115、2006 年、査読有

①⑲浦田 和幸、「語法辞典から学ぶこと」、『英語青年』152-6、p. 372-p. 373、2006 年、査読有

①⑳Zaima, Susumu、*Valenzvergleich*

Deutsch-Japanisch, Dependenz und Valenz Handbücher zur Sprach- und

Kommunikationswissenschaft, 2. Halbband, Volume 2、p. 1298-p. 1303、2006 年、査読有

①㉑Zaima, Susumu、*German Language Research Methodology Based on Language Use - Language, Use, Application and Evaluation -*、*Linguistic Informatics VI Linguistic Informatics and Spoken Language Corpora - Contributions of Linguistics, Applied Linguistics, Computer Sciences -*、*Linguistic Informatics VI*、p. 309-p. 330、2006 年、査読有

①㉒川口 裕司、「検定試験と外国語教育」、『外国語教育研究』9、p. 100-p. 136、2006 年、査読有

①㉓川上 茂信、「Regular」、『語学研究所論集』11、p. 1-p. 21、2006 年、査読有

①㉔川上 茂信、「多義的単位性 -- 『血の婚礼』における sangre」、『スペイン語学研究』21、p. 1-p. 17、2006 年、査読有

①㉕鈴木 信五、「イタリア語における『接語重複』の構文: ルーマニア語との対照」、敦賀陽一郎他編『言語情報学研究報告 11』、東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」11、p. 157-p. 193、2006 年、査読有

〔学会発表〕(計 10 件)

①富盛 伸夫、「ヨーロッパ連合 (EU) における高等教育改編と言語教育政策の問題点について」、外国語教育学会第 12 回研究報告大会、2008 年 11 月 15 日、東京学芸大学

②山本 真司、「Friulian Culture as an Instrument of Propaganda in Conflict with the Linguistic-Ethnic Minorities in Friuli (フリウリにおける対少数言語民族集団プロパガンダの道具としてのフリウリ文化)」、*Linguapax Asia* 2008、2008 年 10 月 26 日、東京大学

③山本 真司、「宗教改革におけるカルニオラ、トリエステ、フリウリの間の交流—プリモシュ・トゥルーバルの生誕 500 周年に寄せて—」、イタリア学会第 56 回大会、2008 年 10 月 19 日、神戸大学

④山本 真司・尾田 泰彦、「プリモシュ・トゥルーバルと聖書翻訳」、スロヴェニア言語・文化シンポジウム：スロヴェニア語文学の父プリモシュ・トゥルーバルの生誕 500 周年 およびスロヴェニア EU 議長国 (2008 年) を記念して、2008 年 6 月 21 日、東京大学

⑤山本 真司、「ピエートロ・ボノーモとプリモシュ・トゥルーバル」、スロヴェニア言語・文化シンポジウム：スロヴェニア語文学の父プリモシュ・トゥルーバルの生誕 500 周年 およびスロヴェニア EU 議長国 (2008 年) を記念して、2008 年 6 月 21 日、東京大学

⑥山本 真司、「イタリア北東部国境地域におけるロマンス語・スロヴェニア語の言語接触について」、日本ロマンス語学会第 46 回大会、2008 年 5 月 17 日、東京大学

⑦黒澤 直俊、「ポルトガル国内におけるアストリア・レオン方言について」、日本ポルトガル・ブラジル学会関西支部会、2008 年 3 月 21 日、京都外国語大学

⑧黒澤 直俊、「シンポジウム 外国語の教科書 ポルトガル語」、外国語教育学会、2007 年 11 月 18 日、東京学芸大学

⑨川村 三喜男、「初歩のオランダ語：何を学び、何を教えるか?」、ベルギー・フランドル交流センター・オランダ語講座特別講演会、2007 年 11 月 16 日、ベルギー・フランドル交流センター

⑩黒澤 直俊、「総合討議「ロマンス諸語における色彩表現」ポルトガル語パネリスト」、日本ロマンス語学会、2007 年 5 月 26 日、長崎県立大学

〔図書〕(計 12 件)

①富盛 伸夫、駿河台出版社、財団法人フランス語教育振興協会編『文部科学省認後援 実用フランス語技能検定試験 2008 年度準 1 級公式問題集』、2008 年、122 頁

②鈴木 信五、三省堂、石井米雄編『ヨーロッパ編 世界のことば・辞書の辞典』ルーマニア語、2008 年、p. 100-p. 112

③黒澤 直俊、三省堂、石井米雄編『ヨーロッパ編 世界のことば・辞書の辞典』ポルトガル語、2008 年、p. 283-p. 293

④富盛 伸夫、三省堂、石井米雄編『ヨーロッパ編 世界のことば・辞書の辞典』ロマンシュ語、2008 年、p. 194-p. 210

⑤森 信嘉、三省堂、石井米雄編『ヨーロッパ編 世界のことば・辞書の辞典』ノルウェー語、2008 年、p. 389-p. 399

⑥川口 裕司、三省堂、石井米雄編『ヨー

ロッパ編 世界のことば・辞書の辞典』フランス語、2008 年、224-p. 240

⑦Suzuki, Shingo、ルーマニア国立ブカレスト大学提出博士論文、*Costituenti a sinistra in italiano e in romeno*、2008 年、243 頁

⑧川村 三喜男、白水社、『ニューエクスプレス オランダ語』、2008 年、141 頁

⑨森 信嘉、成文堂、『北欧世界のことばと文化』、2007 年、258 頁

⑩金指 久美子、白水社、『チェコ語のしくみ』、2006 年、144 頁

⑪在間 進、大修館書店、『詳解 ドイツ語文法』、2006 年、343 頁

⑫Kawaguchi, Yuji、John Benjamins、*Spoken Language Corpus and Linguistic Informatics*, in *Foundations of Usage-Based Linguistic Informatics (UBLI)*、2006 年、432 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

富盛 伸夫 (TOMIMORI NOBUO)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50122643

(2) 研究分担者

浦田 和幸 (URATA KAZUYUKI)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50168762

川口 裕司 (KAWAGUCHI YUJI)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：20204703

山本 真司 (YAMAMOTO SHINJI)

東京外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50251559

川上 茂信 (KAWAKAMI SHIGENOBU)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：40214598

黒澤 直俊 (KUROSAWA NAOTOSHI)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：80195586

金指 久美子 (KANAZASHI KUMIKO)

東京外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：00242222

森 信嘉 (MORI NOBUYOSHI)

東海大学・文学部・教授

研究者番号：40256160

鈴木 信五 (SUZUKI SHINGO)

東京音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：40338835

ラトクリフ ロバート (ROBERT RATCLIFFE)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50292991

長與 進 (NAGAYO SUSUMU)

早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：40172564
在間 進 (ZAIMA SUSUMU)
東京外国語大学・外国語学部・研究員
研究者番号：30117709

(3) 連携研究者